4日　月曜

ヘブル

3:1 ですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい。
3:2 モーセが神の家全体の中で忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実でした。
3:3 家よりも、家を建てる人が大いなる栄誉を持つのと同じように、イエスはモーセよりも大いなる栄光を受けるにふさわしいとされました。
3:4 家はそれぞれだれかが建てるのですが、すべてのものを造られたのは神です。
3:5 モーセは、後に語られることを証しするために、神の家全体の中でしもべとして忠実でした。
3:6 しかしキリストは、御子として神の家を治めることに忠実でした。そして、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けさえすれば、そうなのです。
3:7 ですから、聖霊が言われるとおりです。「今日、もし御声を聞くなら、
3:8 あなたがたの心を頑なにしてはならない。荒野での試みの日に神に逆らったときのように。
3:9 あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、わたしを試し、四十年の間、わたしのわざを見た。
3:10 だから、わたしはその世代に憤って言った。『彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない。』
3:11 わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れない。』」

2章まででは、イエスの先在性や永遠性、そして御使いよりも優位であり、神と同等の権威ある存在、礼拝されるべき神そのものであられること、さらには人となって苦しみによって人の救いを全うした大祭司であることが論証されました。

しかしここでイスラエルの家という歴史を貫く共同体においてはどのように位置づけられるのか。その点において語られています。イスラエルの共同体はモーセによって、またモーセの律法によって導かれてきました。それはモーセが「家」対し忠実であったがゆえです。しかし「家よりも、家を建てる者が大きな栄誉を持つ」のですから、「家」というイスラレル共同体よりも「家を建てる者」であるイエス様が大きな栄誉をもつことは当然です。モーセはイエス様ご自身に忠実であるはずだということです。

ですから私たちもイエス様に忠実であってこそ、共同体を建て上げるという栄誉にあづかることができます。共同体とは12節にもあるように教会であり、教会とは「確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続ける」私たちであり、そのような信仰によって働くクリスチャンの群れなのです。

イエスを思い、イエスの願いを思い、イエスに忠実に生き、イエスの家である教会を建て上げましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？